SY1-4

いつでもどこでもトラウマインフォームドケア

田中　恭子
国立成育医療研究センター　こころの診療部

性的被害、性的虐待はトラウマ体験の中でもより深刻な心の傷となり、性的虐待症候群といわれるような、より複雑で難治なトラウマ症状が続きます。その症状により心身とも、また社会的機能にも影響し、子どもの場はとくに、遊び・学習など成長・発達の機会が失われることも少なくないため、早期発見、早期介入が求めれます。コロナ禍でこのような被害が水面下で増加している可能性もあり急務の対応を検討しないとなりません。

昨今、逆境体験がもたらす生物心理社会的影響が報告され、トラウマ体験を早期に気づき再トラウマ化を予防するためのプライマリーケアとしてのトラウマインフォームドケア（TIC）の重要性が国際的にも問われています。小児保健に関わる関係者の多くは、子どもたちとその家族を見守る最前線にいます。だからこそ子どものトラウマ体験とその体験に基づくトラウマ症状の早期発見およびその対応ができる可能性があります。

トラウマケアは段階的に成り立ち、そのベースにあるトラウマ・インフォームド・ケアは、このような科学的知見を小児医療とアウトカムに反映させ、改善するものです。トラウマに実際に対処し、回復力を促進するために、私たち小児保健に関与するスタッフは、親と子ども、2 世代に渡るアプローチが可能です。アタッチメント関係を評価し、養育者の役割である調節力とレジリエンスを促進する介護者の役割を促すことができるのです。TIC の提供は、子どもの一般的なアセスメント行為によって達成されるものであり、まず患者や家族に関わり、安全な環境を提供することから始めます。また家族のために、地域の資源を積極的に活用し、積極的な育児スキルや調節能力を促進するプログラムへのリンクを促進します。臨床の場では、TIC は、医療の根本的な問いを、「どこが悪いのか」から「何が起きているのか、起きたのか」に変え本人の強み、保護因子を強調し、そしてエンパワーメントすることから始まります。そのためには目の前の子どもや家族の状況や行動を非難するのではなく、思いやりのあるアプローチが必要です。またＴＩＣはそのベースに必要不可欠である概念として、「相互の尊敬」があり「必要な情報が共有される」という点を忘れてはなりません。目の前の子どもや家族は「過酷な状況の中、必死で生き抜いてきた勇気ある人」という視点を持って接することが求められます。子どもの能動的な選択を最大限尊重し、自分の行動を自分で決定しコントロールする感覚を取り戻すことを見守り、エンパワメントの視点が大切にしながら関わります。本講演ではアタッチメントベースドのＴＩＣについて触れながら再トラウマ化を防ぐエッセンスを皆さまと確認してまいります。

Presented by Medical*Online